「愛・地球博 EXPOエコマネー事業」の成果 および

「EXPOエコマネー継承事業」検討の方向性

2006年11月28日

財団法人 2005年日本国際博覧会協会





EXPOエコマネー事業の概要・成果

■ エコポイントとは

市民が行う環境配慮行動によってエコポイントが発行され、市民によってエコポイントは環境配慮行動、事業などに還元されます。多くの市民がエコポイントの発行・還元を通して、環境配慮行動に取り組めば、個々の行動は小さくても総量としては非常に大きな効果を生み出すことになります。

端的に言うと、エコポイントは発行と還元の両面で二重に環境にやさしい付加価値の創出につながる、大きな好循環を社会に定着する媒体といえます。

■ 愛・地球博におけるEXPOエコマネー事業

地球温暖化防止や持続可能な社会の実現を目的に、EXPOエコマネー(エコポイント)によって、市民・企業・行政のそれぞれの「環境に配慮した行動」のつながりを強め、 促進する新しい社会システムの実証実験事業として実施しました。



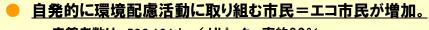
- 会場内にとどまらず、会場外における企業の環境配慮行動の促進活動(NOレジ袋等)によって発行されるポイントとEXPOエコマネーの連携を図りました。
- EXPOエコマネーの還元については企業等の協賛を得て、個人還元としてエコバッグ等の エコ商品との交換、社会的な還元メニューとして植林事業への寄付をメニューとしました。
- EXPOエコマネーの発行・蓄積は μ チップ(ICタグ)の搭載された愛・地球博の入場券を媒体に活用し、データベースで管理しました。
- EXPOエコマネーの発行・還元の拠点として愛・地球博の会場内にEXPOエコマネーセンター を設置し、センター来場者へ環境学習を提供し、EXPOエコマネーについて啓発しました。
- EXPOエコマネー事業のポータルサイトを通じて、EXPOエコマネーの発行・還元情報をもとに事業の成果についてリアルタイムで情報発信しました。

EXPOエコマネー事業の概要・成果

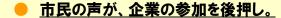
■ EXPOエコマネーの成果

● 市民が中心となり、NPO-企業-協会の連携で実現。

市民が主体となって環境配慮行動を推進。 博覧会協会とNPOが協力して運営を行い、多くの企業から支援を得た。

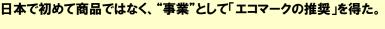


来館者数は、596,121人 / リピーター率約30%。 事業参加者は20万人を突破した!(名古屋市の人口の約10%相当)



参加店舗数 約3,000にのぼる。大手流通企業として、 ユニー、西友、イオン、イトーヨーカ堂、セブンイレブンなどが参加。

- EXPOエコマネー事業が、市民の日常的なエコ活動を促進。 会場外のエコ活動に対するポイント発行数は、総ポイント発行数の73%。
- 事業を通じて、「環境保全活動に参加する」=環境意識の啓発。 ポイントの1/4は「植樹への寄付」へ還元。
- <u>日本環境協会より、『エコマーク』の推奨を受けた。</u>













※ 詳細は、本資料P4以降の「愛・地球博 EXPOエコマネー事業 成果ダイジェスト」を参照



環境意識の啓発から行動の促進に、EXPOエコマネー事業をモデルとした、 新しい社会システムの普及・拡大に効果があることが実証されました。

- 協会−NPO−企業がともに協働する本事業モデルが、それぞれの環境配慮活動を促進することにつながり、その好循環によって事業の意義が発揮されました。
- 会場外の環境配慮行動を活性化しました。
- レジ袋削減以外のエコ活動の拡大に可能性を感じさせました。
- 個人そして社会への還元の選択を用意したことで、市民の環境意識の啓発に 結びつきました。

EXPOエコマネー継承事業への取り組み

■ EXPOエコマネー継承事業の目標

- 地球温暖化防止のために民生部門の取り組み、とりわけ市民の環境意識を啓発し、 自発的に環境配慮行動を行うエコ市民の拡大をめざします。
- EXPOエコマネーの成果をふまえ、地球環境の利害関係者(国、自治体、企業等)の連携をはかるエコポイントを導入し、「市民の日常生活」を持続可能にしていくための好循環を社会に普及・定着させます。

■ EXPOエコマネー継承事業の検討の方向性

エコポイントを広域に普及するために、社会インフラとして確立していきます。

- NOレジ袋以外の発行メニューを拡大します。
- 市民の参加機会を拡大します。
- 環境にやさしい付加価値を創出する環元メニューの拡大・魅力を向上させます。

既に実施している類似の環境啓発事業

ポイントの発行メニュー

NOレジ袋 (一部、ボランティア活動) ポイント媒体

シール スタンプカード ポイントの還元メニュー

Cash Back

EXPOエコマネー継承事業拡大の方向性

NOレジ袋以外の環境配慮行動への発行メニューの拡大

- **13R系の事業**
- ②グリーン購入(エコ商品)
- ③環境啓発·学習

市民(利用者)の 参加機会の拡大

- ①利用可能な地域の拡大
- ②ポイントを楽しく貯める システムの開発

環境配慮行動への 還元メニューの拡大 魅力の向上

- ①全国/地域で取り組む 環境保全活動
- ②企業のCSR事業との連携

■ EXPOエコマネー継承事業の事業構造

エコポイント事業を広域に普及するに際し、多くの企業、行政、地域主体等との連携を図るためにエコポイント事業を運営するプラットフォームを設置します。



EXPOエコマネー継承事業 プラットフォーム

プラットフォームは各主体の取組みを ネットワークし、事業の共通化・合理化 をはかる。

- ・ポイントの発行・還元メニューの コーディネートを行う。
- ・ポイントの発行・管理に伴うシステム の運営を行う
- ・エコ市民拡大のための環境啓発、 情報発信を行う

「愛・地球博	EXPOエコマネ	*一事業	成果ダイ	(ジェスト

「愛・地球博 EXPOエコマネー事業」 成果ダイジェスト

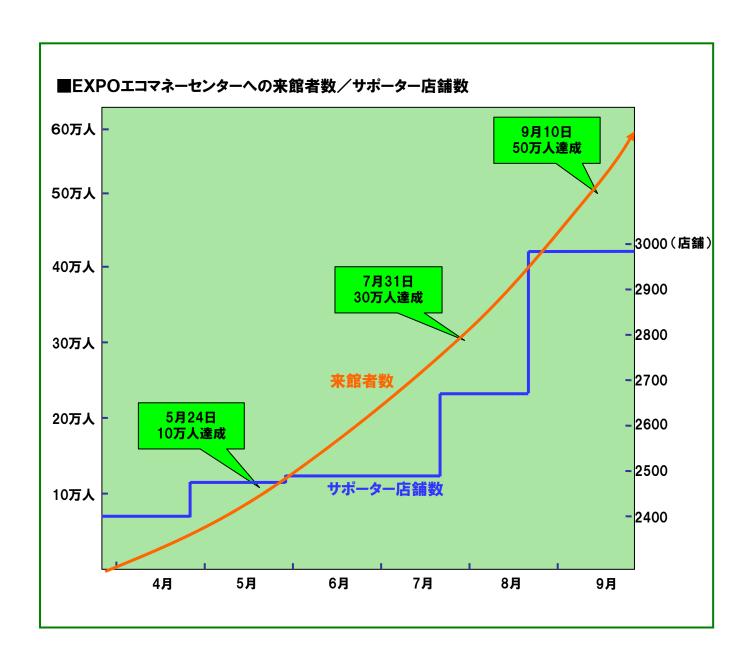
自発的に取り組むエコ市民が増加し、市民の声が企業の参加を後押し。

●会期の経過とともに、来館率が増加。

- •EXPOエコマネーセンター来館者数 596,121人。
- •来館率 2.7% (対 万博会場入場者数比)。
- ・高いリピーター率(約30%)。

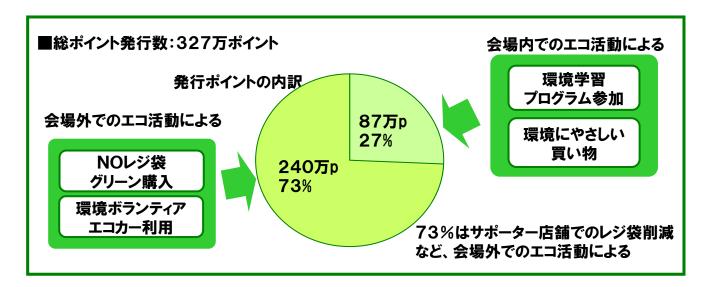
●市民(消費者)の声の高まりによって、大手流通企業が参加。

- 会期途中から大手スーパー、大手コンビニが相次いで参加。
- ・全国で約3000の店舗が参加。



市民の日常的なエコ活動を促進。

- ●215,000人のエコ市民が誕生
- -215.00人が実際にエコ活動に参加。のべ参加人数は48万人に。
- ●総ポイント数の73%は、会場外のエコ活動による。
- ・会期終了時点での総発行ポイントは、327万ポイント。
- ・うち73%はサポーターの店舗でのレジ袋削減など、会場外でのエコ活動によるもの。
- ●サポーター各店舗でのレジ袋辞退率が向上。
 - ・万博会場近隣の某店舗では、昨年同期比で10%超のアップ。
- ●本事業によるCO2削減の直接的な効果は、233t。
 - ・会場外でのレジ袋削減活動によるポイント発行数は233万ポイント。 1回のレジ袋削減活動でCO2を100g削減できるとすると、233tの削減になる。



- ■ポイント発行数の高い会場外サポーター(NOレジ袋):30万ポイント以上
 - ・イオン(株) 中部カンパニー
 - ・名古屋市内エコクーぴょん参加店
 - ・豊田市共通シール(エコシール)制度加盟店
 - -ユニー(株)
- ■ポイント発行数の高い会場内サポーター(環境学習):3万ポイント以上
 - ・地球市民村・森の自然学校・瀬戸愛知県館・長久手日本館・イタリア共和国
- ■ポイント発行数の高い会場内サポーター(環境にやさしい買い物)
 - :2千ポイント以上
- ・サークルK愛・地球博店・ファミリーマート愛・地球博店・三菱未来館
- ・国際赤十字・赤新月館 ・ベルギー王国 ・ヨルダン・ハシミテ王国 ・国際連合

環境意識を啓発.

社会還元

- ●ポイントの1/4は、「植樹への寄付」
- ・社会還元に寄付されたポイント数は、53万ポイント
- ・ 個人への還元だけでなく、「植樹への寄付(社会還元)が 全体の約1/4に。



植樹への寄付へ寄せられた声

- ・もっと頑張って貯めて植樹に寄付したいです。
- ・いつもレジ袋を断っているので、スタンプが たくさんありました。もっと貯めて植樹に 寄付したいです。
- ・万博で植樹ができて良い記念になりました 何だかいいことした気分です。
- まだまだ植樹するぞー!

個人還元

●環境配慮活動で貯めたポイントで、ご褒美としてエコ商品と交換

- ・会期中にエコ商品と交換された総交換ポイント数は、170万ポイント
- ・日常品を中心とした多種類にわたるエコ商品と人気商品ランキングベスト3 【商品例】











リサイクル石鹸

エコバック

環境配慮型衣類 生分解性プラスチック

A告 D告 C 1告 C 2告 C 2告 C 4告

懸賞応募

▶国内外のエコツアーが当たる懸賞応募

☆Aコース:海外エコツアーご招待「ケアンズ植林の旅」(11月2日~11月7日 3泊5日/合計10組20名様)

☆Bコース:国内エコツアーご招待「トヨタ白川郷自然学校体験ツアー」

(7月16日~7月17日 1泊2日/合計20組40名様)

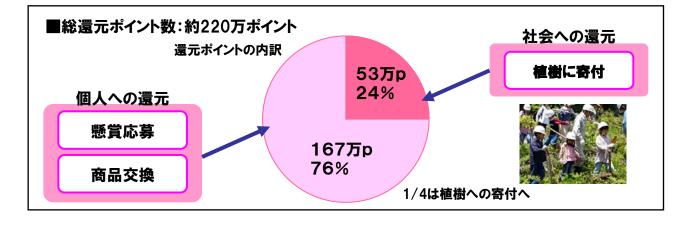
☆Cコース:エコ商品プレゼント(オークビレッジ製)C-1:机セット C-2:椅子 C-3:木琴 C-4:玩具(合計100

有効応募数の内訳

応募件数 約12.000件 (約24.000ポイント)

			A貝	D貝		してと貝	してる具	し-4具
ŧ	前	郵便	2.5%	1.7%	0.3%	0.5%	0.3%	0.2%
		センター	10.1%	4.5%	1.9%	2.6%	1.4%	1.0%
	期	WEB	1.7%	1.2%	1.0%	0.9%	0.5%	0.4%
	後	郵便	6.0%		2.0%	2.6%	1.3%	1.0%
	期	センター	17.5%		6.1%	6.5%	3.4%	2.4%
		WEB	7.6%		3.4%	3.7%	2.3%	1.4%





協賛企業/団体

NPO法人 国際資源活用協会 オークヴィレッジ 株式会社セブン-イレブン・ジャパン 株式会社名鉄エージェンシー 環境省 グリーンライフ21プロジェクト グンゼ株式会社 こども環境サミット2005豊田市参加者 財団法人 日本環境協会 財団法人バイオインダストリー協会 「CO2ダイエット宣言」実行委員会 (事務局:東京電力株式会社) 社団法人日本ダストコントロール協会 社団法人日本有機資源協会 生分解性プラスチック研究会会員企業 東急観光株式会社 陶志会 独立行政法人 産業技術総合研究所 名古屋栄ロータリークラブ 2005年愛知万博豊田地区推進協議会 伯方塩業株式会社 ミサワホーム株式会社

-協賛・協力企業/団体の主な露出ー

■EXPOエコマネーセンター内



■リーフレット



協力企業/団体

イオン株式会社中部カンパニー エコプラットフォーム東海 NPO法人 サイクル・エコ NPO法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 NPO法人 ソムニード NPO法人中部リサイクル運動市民の会 NPO法人ドングリの会 NPO法人ビーグッドカフェ FM-LOVEARTH 株式会社イト一ヨーカ堂 株式会社カトー モスバーガー事業部 株式会社バロー 株式会社松坂屋ストア 株式会社パレ 株式会社ヤマナカ 株式会社ユーストア 蒲郡市商店街振興組合連絡協議会 環境デーなごやをもっとおもしろく市民の広場企画委員会 公共交通エコポイント社会実験企画会議 財団法人 オイスカ さがみはら環境まつり実行委員会 「CO2ダイエット宣言」実行委員会 (事務局:東京電力株式会社) 滋賀県立大学・イベント計画グループ (LOVE☆モリゾーバック) 社団法人 名古屋建設業協会 西友グループ セブン-イレブン[愛知県内全店] 地球市民村 中部電力株式会社 東急観光株式会社 豊田市/とよたエコライフ倶楽部 トヨタ白川郷自然學校 長久手町 名古屋市 名古屋市/容器·包装3R推進協議会 名古屋大学 森川·山本研究室 マックスバリュ中部株式会社

■WEB

マルエツグループ

ユニー株式会社



(株式会社マルエツ/サンデーマート株式会社)

会場外サポーター

<NOレジ袋によるエコポイントの発行>

イオン株式会社中部カンパニー

株式会社イトーヨーカ堂

株式会社カトー モスバーガー事業部

株式会社バロー

株式会社松坂屋ストア

株式会社名鉄パレ

株式会社ヤマナカ

株式会社ユーストア

蒲郡市商店街振興組合連絡協議会

西友グループ

セブン-イレブン愛知県内全店

豊田市/とよたエコライフ倶楽部

名古屋市/容器·包装3R推進協議会

マックスバリュ中部株式会社

マルエツグループ

(株式会社マルエツ/サンデーマート株式会社)

ユニー株式会社

<NOレジ袋削減以外によるポイントの発行>

エコライフプラザ【ささしまサテライト会場】

NPO サイクル・エコ

環境デーなごやをもっとおもしろく市民の広場企画委員会

公共交通エコポイント社会実験企画会議

さがみはら環境まつり実行委員会

「CO2ダイエット宣言」実行委員会

(事務局:東京電力株式会社)

社団法人 名古屋建設業協会中部電力株式会社

東急観光株式会社

名古屋大学 森川·山本研究室

名古屋市

会場外サポーター				
ポイント発行メュー	参加団体数			
レジ袋削減	16			
環境学習·啓発	6			
エコ宣言	3			
交通	1			

会場内サポーター				
ポイント発行パビリオン	パビリオン数			
公式参加出展国	17			
国内パビオン	15			

会場内サポーター

<長久手会場>

公式参加出展国

イタリア共和国

国際赤十字:赤新月館

国際連合

コートジボワール共和国

タンザニア連合共和国

ドイツ連邦共和国

チュニジア共和国

ナイジェリア連邦共和国

南太平洋共同館

パキスタン・イスラム共和国

バングラデシュ人民共和国

ブルンジ共和国

ベルギー王国

ポルトガル共和国

モンゴル国

ヨルダン・ハシミテ王国

ルーマニア

国内パビリオン

EXPOエコマネーセンター

ECO LINK(エコリンク)

地球市民村

長久手日本館「どこでもニッポンカン」

ナチュラルフードカフェ&オーガニック・ガーデン

NEDO「未来のエネルギー探求ツアー」

万博エコツアー

(バックヤート゛ツアー、キッス゛ツアー、セルフエコツアー)

森の自然学校

店舗

香りショップ ルーシー

サークルK愛・地球博店

ファミリーマート愛・地球博店

三井・東芝館

三菱未来館@earthもしも月がなかったら

<瀬戸会場>

里の自然学校

瀬戸愛知県館

<イベントなどによるポイント発行>

地球市民村(体験と交流のゾーン)

5月:NPO法人ドングリの会

6月:エコプラットフォーム東海 7月:財団法人 オイスカ

8月:NPO法人中部リサイクル運動市民の会

NPO法人 シャプラニール=市民による海外協力の会

9月:NPO法人 ソムニード

イベント

村祭 (FM-LOVEARTH、地球市民村)

滋賀県立大学・イベント計画グループ

(LOVE☆モリゾーバック)

全国小学校への苗木プレゼント(EXPOエコマネー事業の社会還元事業)

EXPOエコマネー事業の社会還元事業は「植樹への寄付」としていたが、「CO2ダイエット宣言」実行委員会様の協賛を得て、全国の小学校へ500本分の苗木(苗木1本=1,000ポイント相当)をプレゼントする事業を行った。

この植樹の仕組みは、市民のエコ活動を企業・団体・行政・個人が支援して還元していくモデル実験という 意味合いもあった。

2005年10月1日から10月31日までの一ヶ月の応募期間内に、全国から広く319校の応募が寄せられ、厳正な抽選の結果、94校に苗木を送付した。



報道実績

- 4月 5日 読売新聞「まちかど特派員」 4月25日 中日新聞「エコマネーは成長株」 5月 3日 読売新聞「EXPOエコマネー大盛況」 5月 4日 中日新聞「われら地球人」 5月 7日 中日新聞「役に立っている実感」 5月 8日 中日新聞「自発的行動で街が変化」 5月12日 読売新聞「エコマネー事業に"お墨付き"」 5月12日 中日新聞「エコマーク使用認可」 5月13日 中日新聞「自慢のエコ作品見やすく地図に」 5月14日 中日新聞「環境博らしさ」 5月14日 読売新聞「私も主役」 5月18日 毎日新聞「ズームアップEXPO 人気呼ぶ植林寄付」 5月25日 毎日新聞「来館者10万人に」 5月25日 読売新聞「10万人達成」 5月31日 朝日新聞「ふれんどあさひ」 5月25日 読売新聞「エコ物語・みんなの力で地球をきれいに」 6月 1日 読売新聞「エコ物語・イタリア館エコマップ」 6月 5日 中日新聞「広がれエコの輪」 6月 4日 中日新聞「持続可能な社会へ」 6月 6日 中日新聞「社説・マイバックはお得です」 6月24日 日経新聞「万博の未来」 6月25日 読売新聞「環境博 会場外へ広がり」 6月25日 中日新聞「愛知万博開幕3ケ月」 7月 1日 毎日新聞「エコマネー活用・ケヤキなど植樹」 7月 1日 読売新聞「EXPOエコマネーが木に」 7月 1日 中日新聞「万博エコマネー使い苗木植える」 7月 2日 中日新聞「伝統の知恵 生かす試み」 7月 3日 中日新聞「万博の使用済み入場券」 7月 4日 電気新聞「中部電力エコマネー事業に参加」 7月 5日 中日新聞「環境学習参加で万博エコマネー中電」 7月 5日 読売新聞「EXPOエコマネー中電も参加」 7月15日 日経新聞「環境保護促すエコマネー・万博閉幕後も残そう」 7月16日 中日新聞「人生に一度・価値ある実験場」 7月18日 中日新聞「森のささやき・エコマネー」 7月19日 中日新聞「環境万博の楽しみ方」 7月27日 東京新聞「愛・地球博の成果生かせ」 8月 1日 毎日新聞「来館者30万人 エコマネーセンター」 8月 6日 読売新聞「『環境』じわり浸透」 8月 6日 中日新聞「NPOの力 結集」 8月 7日 中日新聞「有終の美に向けて」社説 8月 7日 中日新聞「愛@地球」 8月11日 中日新聞「21日から公共交通エコ実験」 8月11日 中日新聞「環境学習の輪 葉でPR 津高校」 8月12日 東京新聞「We Love Tokyo 市民参加万博継承など探る」 8月24日 東京新聞「We Love Tokyo 万博エコマネー お手本に」 8月25日 中日新聞「万博のエコマネー事業 セブン-イレブン参加」 8月25日 日刊工業「"EXPOエコマネー" 普及へ」 8月28日 中日新聞「エコマネー 広がる緑」
- 9月 3日 中日新聞「難産の子強く育つ」 9月 6日 中日新聞「EXPOエコマネー 閉幕後 金山にセンター」 9月 6日 朝日新聞「万博エコマネー 閉幕後も継続」 9月 6日 中日新聞「エコマネー『全国展開も』東京でシンポ」 9月 6日 読売新聞「エコマネー、閉幕後も継続」 9月 6日 日経新聞「万博終了後もエコマネー継続」 9月 6日 毎日新聞「エコマネー閉幕後も事業継続」 9月 6日 中日新聞「神田知事会見 万博の財産 県政活用」 9月 6日 読売新聞「万博生かす取り組み知事示す」 9月 6日 毎日新聞「閉幕後も大規模イベント誘致を 知事」 9月 6日 中部経済「『エコマネー』万博後も継続」 9月 7日 中日新聞「松原市長 エコマネー発展を 移設決まり意欲」 9月 9日 奈良新聞「地球と人に優しい環境通貨」 9月10日 中日新聞「環境に良い"遺産"」 9月10日 中日新聞「エコマネーで緑増やして 名古屋の中学生寄付」 9月12日 電通報 「環境通貨の実証実験を総括」 9月13日 ふれんどあさひ「市民の力で万博の枠を超えて」 9月13日 中日新聞「来館者50万人に EXPOエコマネーセンター」 9月18日 中日新聞「万博秋天 市民参加まずは成功」 9月19日 Yomiuri "EXPO's eco-friendly tactics set for Nagoya" 9月19日 中日新聞「"幻の陶貨"早くも人気」 9月22日 中日新聞「万博で子実感 エコの心掛け」 9月24日 朝日新聞「終章愛知万博 エコ活動促す契機に」 9月24日 朝日新聞「環境学ぶ場になった」社説 9月25日 朝日新聞「万博名残惜しむ」 9月25日 読売新聞「幻の貨幣"陶貨"復刻」 9月29日 中日新聞「万博の果実 エコマネー思わぬ成功」

9月30日 朝日新聞「エコマネー参加21万5312人」

10月7日 中日新聞「万博 市への経済効果10億円」

「愛・地球博 EXPOエコマネー事業 成果ダイジェスト」

報道実績

	_				
	5月	5日	東海TV	万博ぴーかん	情報
	5月	6日	CBC	まるっと万博	情報
	5月	6日	CBC	ユーガッタCBC	報道
	6月	1日	CBC	まるっと万博	情報
	6月	1日	NHK	ほっとイブニング	報道
	6月	3日	TV愛知	マイユウ	報道
	6月2	8日	CBC	まるっと万博!	情報
	7月1	0日	東海TV	素敵にTalk2	対談
	7月1	2日	中京TV	特報!EXPOプレス	情報
	7月2	0日	東海TV	万博ぴーかん	情報
	7月2	7日	NHK	ほっとイブニング	報道
	7月3	1日	東海TV	素敵にTalk2	対談
	8月1	3 日	中京TV	クスクス	情報
	8月2	5日	TBS	しゃちっ娘	情報
	9月	5日	TV愛知	マイユウ	報道
	9月1	2日	TV愛知	マイユウ	報道
	9月1	2日	東海TV	スーパーニュース	報道
	9月1	6日	中京TV	特報!EXPOプレス	情報
	9月2	0日	中京TV	特報!EXPOプレス	情報
	9月2	3日	NHK	ナビゲーション	情報
	9月2	5日	NHK	愛・地球博閉会式	報道
	9月2	5日	TV愛知	万博の残すもの・高めよナゴヤパワー	情報
	9月2	8日	名古屋TV	UP!	報道
1	0月1	0日	TBS	2200万人の感動/愛・地球博がもう一度見たいSP	情報
1	0月1	2日	NHK	ほっとイブニング	報道
1	0月2	2日	TV東京	愛・地球博ぜ~んぶ復習しちゃいますスペシャル	情報